

★入会案内

どなたでも入会できます。

一 年度会費 九〇〇〇円

学部学生（証明が必要）は六〇〇〇円

二 入会申し込み

氏名・住所・勤務先（学生は大学名）をお知らせください。

手続き

①入会申込書による申し込み

②学会事務局へのメール・電話・ファックス
・葉書による直接申し込み



日本国語教育学会 事務局

〒112-0003 東京都文京区春日
2-14-10-103

TEL 03-6801-5951

FAX 03-6801-5952

URL:<http://nikkokug.org/>

Mail:kokugokyoku@nifty.com

★学会誌 『月刊 国語教育研究』



● 大事な情報・ホットな話題を提供します。

● 研究者と実践者との課題を追究します。

● 研究や授業の取り組みのヒントがあります。

● 会員のみに配布します。

★令和八年度 月別特集テーマ

四月 国語単元学習と人間形成

五月 国語科と探究活動

六月 学び手の「問い」が生きる国語単元学習

七月 個が生きる「話すこと・聞くこと」の指導

八月 書くことの学びの実感

九月 今求められるリテラシー

十月 日本国語教育学会 西日本集会

十一月 日本国語教育学会 国語教育全国大会

十二月 今につながる古典学習

一月 年間指導計画と評価

二月 共感する力を育てる国語単元学習

三月 AI活用と国語単元学習

日本国語教育学会

—一九五四年創設—

七十二年の歴史に支えられて、ともに学び合い

新しい時代をひらきます。

幼保から小・中・高・大学にわたり

国語教育について考えます。

豊かな言葉が、豊かな知性を育む。
豊かな言葉が、豊かな文化を産む。
豊かな言葉が、豊かな未来を望む。

学会はともに学ぶ会です。明日の国語教育について互いに学び合ひましょう。

令和8（2026）年度

★本学会の歩み

【学会結成】

「日本国語教育学会」は、昭和二十九（一九五四）年に結成された。昭和四十五年、国語教育研究団体の統合が問題となり、日本国語教育学会が中心となって、昭和四十五年七月二十五日設立された新学会が、現在の日本国語教育学会である。

初代会長は旧「日本国語教育学会」会長の西尾実。昭和五十一年三月三十一日、倉澤栄吉が第一代会長に選出された。その後、平成二十三年度に第二代会長 湊吉正、平成二十八年年度に第四代会長 田近洵一、令和二年年度に第五代会長 桑原隆、令和八年度に甲斐雄一郎が選出された。

【組織】

現在の会員数は約二六〇〇名である。全国の研究者・実践家で構成されており、理事一八一名が運営に当たっている。

支部研究会（十一支部）

- ・岩手・秋田・山形・茨城・千葉・新潟
- ・富山・山梨・岐阜・熊本・沖縄

地区研究集会十六地区

- ・岩手・福島・茨城・栃木・埼玉（浦和）
- ・埼玉（熊谷）・千葉・神奈川（川崎）
- ・神奈川（横浜）・山梨・長野・岐阜
- ・愛知・静岡・島根・和歌山

★★★会報★★★

企画・情報部年一回発行(学会誌綴込み)
学会の運営や各地の活動の情報等を提供

★★★ホームページ

研究会案内等を常時発信

★公開研究会

研究部：国語教育の基本的なあり方を理論と

実践の両方から探究

幼保部会：たのしいことは体験の開発

子どもの心を育てる保育・教育

小学校部会：「（こ）ぼの学び」あらばこそを

実感する国語単元学習の開発

中学校部会：国語単元学習の創造

―中学校で育てる国語力とは何か―

高等学校部会：高校国語の多様な可能性を

個性的な教育実践を通して追究

大学部会：幼保から社会人まで、言葉に関する

今日的課題を追究

企画・情報部：国語授業力アップへの

実践セミナーの開催

★国語教育全国大会

令和八年八月八日（土）九日（日）

会場 筑波大学附属小学校

一日目

基調提案

授業

研究協議会

展望

二日目

校種別分科会

テーマ別分科会

大学シンポジウム

幼稚園・保育所部会

シンポジウム・講演会

単元学習実践研究発表



★西日本集会

令和八年六月十三日（土）

開催地 徳島



内容の詳細は、学会誌やHPでお知らせいたします。

入会申込書

学会の趣旨に賛成し入会いたします。

年 月 日

(ふりがな)

氏名

・郵便番号 ()

・住 所

・電 話 ()

・Eメール

・勤務先

・電 話 ()

・通信欄

・紹介者 ()

※紹介者はなくともかまいません

メール・電話・fax・葉書のいずれかで申し込んでください

刊行

『シリーズ国語授業づくり』

高校：『新科目編成とこれからの授業づくり』

中学校：『文学』『古典』『説明文・論説文』『国語授業づくりの基礎・基本』

小学校：『ノート指導』『読書』『作文』『話す・聞く』『交流』『板書』『単元を貫く学習課題と言語活動』『読書』『音読・朗読』『発問』『幼稚園・保育園：『0～6歳児』言葉育てる』保育』